

◆茅ヶ崎同盟教会たより 2022年7月

この水を飲む人はみな、また渴きます。しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

ヨハネ 4章 13-14 節

井戸に水を汲みに来ていたサマリアの女性に、主イエスは飲み水を求めました。喉の渴きを潤す水を手がかりに、決して渴くことがない水があるのだと主イエスは語ります。イエス・キリストが与える水は、人の心に泉を拓く水となると言うのです。

主イエスは、はじめは「のどの渴き」を潤す水分を話題にしながら、「心の渴き・魂の渴き」に話題を移しています。心が渴くってどういう状態でしょうか。心の中にいつもあつて、心を占めているものを見つめてみると「心の渴き」に思い当たるかもしれません。

安心できない思い、満たされない思い、信じられない思い、そういうものが心を占めていないでしょうか。心から湧いてくるものがいつも不安しかない。心にあるのはいつも社会や家族や自分への不満ばかり。誰にも心許せず、世の中も将来も自分も信じられないとしたら、そこにあるのは心の渴きかもしれません。

主イエスが与える水は、人の心の内に泉を拓き、そこからコンコンと湧き出るいのちの水となるのです。その人の内から、喜びの涙が溢れ、感謝の涙が流れ出すようになるのです。不安や不満や不信で心を涸れさせない、いのちの泉を心の内にもつことができれば、ちよつとやそつとじゃへこたれませんか。イエス・キリストは、人の心に泉を拓くことのできるお方です。

祝福がありますように。

牧師 山村諭